

東京バッハ合唱団



第112回定期演奏会

〈3.11 被災地訪問演奏 = 福島県・南相馬公演〉

J. S. Bach

— 日本語演奏 —

カンタータ第92番《わが心 思い 神にゆだねたり》

Ich hab in Gottes Herz und Sinn BWV 92

「花は咲く」「大切なふるさと」「故郷(「ふるさとの四季」より)」

賛助演奏: そうま地方合唱を楽しむ会合唱団

カンタータ第81番《主イエス眠り いかによすべきわが望み》

Jesus schläft, was soll ich hoffen? BWV 81

モテット《イエス よろこび》

Motette: Jesu, meine Freude BWV 227

[ソプラノ] 光野孝子

MITSUMO Takako, Soprano

[アルト] 佐々木まり子

SASAKI Mariko, Alto

[テノール] 鏡 貴之

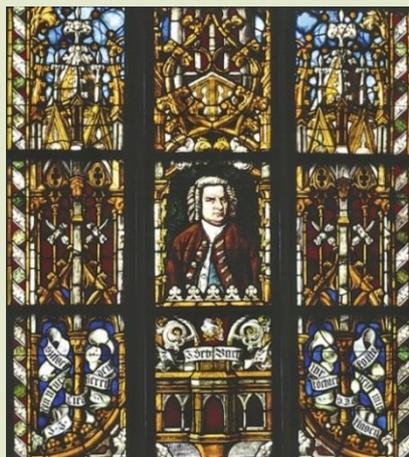
KAGAMI Takayuki, Tenore

[バス] 山本悠尋

YAMAMOTO Yukihiko, Basso

[合唱] 東京バッハ合唱団

BACH-CHOR, TOKYO



東京カンタータ室内管弦楽団 [室内楽]

TOKYO CANTATA CHAMBER ORCHESTRA

石川優歌 [オルガン]

ISHIKAWA Yuka, Organ

そうま地方

合唱を楽しむ会合唱団 [賛助出演]

Soma-Chiho Gasshou wo Tanoshimu Kai, Guest

大村恵美子 [指揮/訳詞]

OHMURA Emiko, Conducting/ Translation

2015年 8/22 (土) 開演 13:30 (開場 13:00)

Saturday, August 22<sup>nd</sup> 2015, 13:30 p.m.

南相馬市民文化会館(ゆめはっと)

Minamisoma City Cultural Hall "YUMEHAT"

〒975-0008 南相馬市原町区本町 2-28-1 (南相馬市役所向かい) TEL:0244-25-2761

〈3.11 被災地訪問演奏〉

この企画は、(3.11)東日本大震災と原発事故の被災地、福島県・南相馬市を訪ね、バッハ音楽の演奏をとおして“災害に耐えて希望と信頼に生きる”という祈りのメッセージをお届けしようとするものです。あわせて私たちもまた、合唱王国そうま地方の合唱を楽しむみなさんから、水準の高い合唱の精神、音楽を愛するところを得て帰ってきたいと願っています。



〈合唱ツアー参加者募集〉

南相馬公演では、バッハのカンタータ 2 曲とモテットを日本語訳詞で歌います。私たちの魂そのものである母語によって、聴き手のこころの奥深くへ、直接、バッハの生きたメッセージをお伝えしましょう。バッハ音楽と合唱を愛するみなさまのご同行をお待ちします。練習は毎週土曜・月曜の 2 回(どちらか 1 回でも可)。詳細はウラ面をご参照ください。

■チケット(全席自由): 前売 1000 円, 当日 1200 円 ■チケット取扱い/問い合わせ: 東京バッハ合唱団事務局

TEL: 03-3290-5731 FAX: 03-3290-5732 MAIL: office@bachchor-tokyo.jp ホームページ(詳細と申込み窓口あり): <http://bachchor-tokyo.jp/>

■現地窓口(チケット取扱い/問い合わせ): ゆめはっと合唱団(代表・藤澤) TEL: 0244-23-5780

[主催] 東京バッハ合唱団 [協力] そうま地方合唱を楽しむ会合唱団, 福島の子どもたちとともに・世田谷の会

[後援] ドイツ連邦共和国大使館, 世田谷区, 杉並区, 公益財団法人南相馬市文化振興事業団, 福島民報社, 福島民友新聞社





### 光野孝子 (ソプラノ) みつ・たかこ

島根大学教育学部特別音楽課程卒業。オペラでの活躍に加え、宗教曲においてもバッハを中心に多くの作品でソリストを務めている。2006年ライブツィヒ・バッハフェスティバルに、樋口隆一指揮・明治学院バッハアカデミー合唱団のソリストとして出演、好評を博す。当合唱団の音楽指導のほか、合唱指揮の分野でも活躍中。二期会会員。



### 佐々木まり子 (アルト) ささき・まりこ

東京芸術大学大学院修士課程独唱科修了。デットモルト北西ドイツ音楽大学留学。帰国後、国内各地にてバッハ作品を中心に演奏活動を行っている。1993年ヴィンジャーマン指揮ドイツ・バッハゾリステン「マタイ受難曲」ではソリストとして国内各地同行。現在岩手大学、東北大学各合唱団の発声指導のほか、合唱団指揮者としても活躍中。



### 鏡 貴之 (テノール) かがみ・たかゆき

東京芸術大学大学院修士課程独唱専攻修了。主にオラトリオ、宗教曲のソリストとして活躍中。バッハの作品では多数のソロを務め、活動の中心になっている。2007年当合唱団《マタイ受難曲》エヴェンゲリストでは絶賛を博す。BCJ声楽メンバー。2012年9月、第4回東京国際声楽コンクールにて第1位・東京新聞賞・審査員特別賞受賞。



### 山本悠尋 (バリトン) やまもと・ゆきひろ

東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院独唱科修了。アカンサス音楽賞、同声会賞、大学院アカンサス音楽賞、武藤舞賞を受賞。モーツァルト「レクイエム」、バッハ「ヨハネ受難曲」のほか、「第九」、「メサイア」等でソリストを務める。1987年生まれの期待の新人、東京バッハ合唱団の第111回定期演奏会(前回)に出演。

## そうま地方合唱を楽しむ会合唱団 (賛助出演)

福島県の浜通り、そうま地域に暮らす人々により1998年5月に5団体の合唱団で設立。毎年発表会を開催して17年になり、今では参加団体も11を数えている。昨年の発表会に向けた第1回理事会で、東京バッハ合唱団の南相

馬公演への賛助出演を呼びかけたところ120人以上の参加応募があり、さっそく各団体での練習を始めた。今年に入って月1回の合同練習を重ねながら、東京バッハ合唱団・第112回定期演奏会に備えている。

## 東京バッハ合唱団 1962年創立

### 東京バッハ合唱団

教会カンタータを中心にバッハの作品のみを演奏し、研究する団体として1962年大村恵美子の呼びかけで組織された。都内での定期演奏会や各地の教会等での200回を超える公演を、1975年までは主に小林道夫氏、その後は大村恵美子の指揮で行っている。国内では日本語上演を原則とする。ライブツィヒ聖トーマス教会(1983年、日本の合唱団初)などドイツを中心に海外巡演も5回を数える。



### 東京カンタータ室内管弦楽団

東京バッハ合唱団のカンタータ連続演奏企画に共鳴して、1979年、大村恵美子の常任指揮者就任と同時に結成、以来30年を超える協演をつづけている第一線の演奏家グループ。声楽パートとともに練習を重ね、カンタータ本来のあり方に沿った奏法を特色としている。一流オーケストラ、アンサンブル等の主要メンバーからなり、全員がバッハ演奏のエキスパートである。

### 大村恵美子(主宰/指揮/訳詞)

東京芸術大学楽理科・作曲科卒業後、フランス・ストラスブール大学と音楽院に留学。在学中よりバッハのカンタータ演奏を志し、1962年帰国とともに合唱団設立、2012年に50周年を迎えた。すでにバッハ宗教合唱作品のほぼ全曲の上演用訳詞を完成、多くは自らの指揮で上演している。著書・訳書多数。現在「ブライトコプフ[日本語版]バッハ・カンタータ楽譜全集」刊行中、既刊67曲。



### バッハ演奏、なぜ日本語か?

◆東京バッハ合唱団は、創設いらい半世紀にわたり、わが国におけるバッハ演奏のパイオニアとして、教会カンタータを中心に多様なジャンルのバッハ合唱曲を紹介しつづけていますが、国内の公演においては、われわれの母語である“日本語”による上演を原則としてきました。

◆なぜ日本語か? それは私たちが日本語で考え、思い、感じているからです。言語の壁は、心のもっとも奥深いところでなされる芸術的共感をはばんでいますが、訳詞演奏は、精神そのものである母語によってその壁を超えてみようとする一つの試みにほかなりません。

◆バッハ音楽の精神的背景には、母語をとおして神と直接向き合おうとするルターの思想が色濃く反映されています。またバッハにいたって、西洋音楽は個々のテキストの意味を形象化し、あるいはテキストの背後の理念や情調に音の形を与えることにより、ラテン語やドイツ語といった特定の言語の制約を超越するに至りました。

◆ですからバッハ音楽の中にあつては、どの言語圏の人々も安心して自分たちの母語に身をゆだねることができるのです。東京バッハ合唱団の日本語による演奏が、バッハ音楽の普遍性の証しとなることを確信しています。

### <3.11>の後で、バッハを聴くこと、演奏すること

3.11は、私たちの合唱団が創立50周年を祝おうとしていた矢先のことでした。その年末、創立記念企画の第1弾、日本語による《ロ短調ミサ曲》初演ののりのプログラムに、「バッハが世に訴えかけた〈地に平和を、神と人との和解を〉のメッセージを、これほど端的に、どぎつく突きつけられた演奏活動は、50年目にして初めての経験です。ご一緒に立ち会ってくださる、同時代の、この会場内の皆様は、深い連帯をおぼえます。心から心へ」と書きました。蒙昧と戦争の世紀の残滓を拭ききれていなかったわれわれの精神を、あの出来事は、激しく目覚めさせてくれたのだと思っています。

超絶した質の高さゆえに、同時代からも、つづく世紀の間も忘れ去られていた《マタイ受難曲》が、先達の努力で蘇生上演された日付けが、奇しくも1829年の3月11日でした。叡智の輝きのあつた18世紀のヨーロッパの背景に、もういちどバッハ芸術を置き直してみる必要がある。

### バッハ日本語演奏のために……ブライトコプフ[日本語版]バッハ・カンタータ楽譜全集

○ドイツ語/日本語並記・大村恵美子訳詞 ○東京バッハ合唱団出版局・既刊67曲  
○南相馬公演の「カンタータ第81番」と「カンタータ第92番」は最新刊。  
○詳細は「バッハ ブライトコプフ 日本語版」で検索。

## 合唱ツアー(南相馬公演)参加者募集

【ツアー概要】2015年8月21日(金)~22日(土)(1泊2日)。

◇1日目:早朝出発(都内⇒南相馬、チャーターバス)、被災地を知る(市内・海岸)、現地の方々との交歓会、宿泊先へ。◇2日目:午前会場準備、リハーサル。午後本番、移動(南相馬⇒都内)。集合/ピックアップ/解散場所など未定。

【経費】参加費(公演費、企画経費などの分担金 35,000円前後)と個人経費(交通・宿泊・食費など計20,000円前後)を予定。納入は4月頃より(分納も可)。

【練習】週2回(どちらへの参加も可。1月から始まっています)

◇土曜日 15:30-17:30、荻窪教会(中央線/メロ「荻窪」南口、徒歩8分)

◇月曜日 18:30-20:30、目白聖公会(山手線「目白」下車、徒歩5分)

【入団金/団費月額】練習参加と本番出演には、入団の手続きが必要です。入団金3,000円、団費5,000円(月額)。詳細は「参加応募要項」をご請求ください。

【定員/締切】各声部若干名(先着順。定員になり次第、締め切り)